

水辺空間を生かしたまちづくり手法検討・調査事業

報告書

本編

目次

0. はじめに	1
1. 現状把握（調査）	2
1.1. 和歌山市の現状.....	3
1.2. 履歴調査.....	9
1.2.1. 背後地の空間分類と履歴	9
1.2.2. 類型 1 と 2：かつて道路や水路だった空間が公的機関／民間に払い下げされた場所 .	10
1.2.3. 類型 3：江戸時代に土壟であった場所	14
1.2.4. 類型 4：かつて河岸だった場所が民地になった後に景観整備されたところ	17
1.2.5. 類型 5：江戸時代から建物が川に面している場所	17
1.2.6. 市堀川沿いの遊歩道の分類.....	18
1.3. 環境調査	21
1.3.1. 内川の流域	21
1.3.2. 内川の水質環境の履歴	21
1.3.3. 水質改善の取り組み	23
1.3.4. 下水と生活排水	27
1.4. 利便施設調査	30
1.5. 水辺の遊休公共資産調査	38
1.6. 来街者分析	39
1.7. ステークホルダー分析	41
1.7.1. ステークホルダー①（タスクフォース）	41
1.7.2. ステークホルダー②（近隣住民）	46
1.7.3. ステークホルダー③（ドリンクス発表者まとめ）	49
1.8. 治水管理者の調査	52

2. プロジェクトのすすめかた	54
2.1. オープンイノベーション	55
2.2. バックキャスティング	57
2.3. タクティカルアーバニズム	57
2.4. わかやま水辺プロジェクトという中間組織による推進体制	59
2.5. 協議会	59
2.5.1. 【成功失敗事例調査】地域内の合意形成を民間事業者自身が担う河川活用事例	61
2.5.2. 【成功失敗事例調査】地域の民間有志が中心となり都市河川の賑わいづくりを実現	65
2.6. ソーシャル・デザイン	69
2.7. ビジョンブック	72
3. まちと水辺の未来像	75
3.1. 水辺のありかたを議論する場：ミズベ会議、水辺シンポジウム等の概要	76
3.1.1. ミズベドリンクス	76
3.1.2. 第1回ミズベ会議	76
3.1.3. 第2回ミズベ会議	77
3.1.4. ミズベシンポジウム	77
3.2. 12のバリューと8つの支える仕組み	78
3.2.1. 【12のバリュー】	79
3.2.2. 【8つの支える仕組み】	85
3.2.3. 【短期、中期、長期目標】	87
3.3. ペルソナ	88
3.4. タスクフォース	92
4. 社会実験的アプローチ	98
4.1. 社会実験の対象区域の設定	98
4.2. 賑わいの創出手段と社会実験の検証プラン	99
4.2.1. 地先利用型河川敷地占用	99
4.2.2. 栈橋設置	102
4.2.3. 京橋駐車場を公園的な空間に整備	103
4.2.4. 公共ストックの活用したポップアップストア	104
4.2.5. 舟運によってまちなかに新たな人の流れをつくる	105
4.2.6. 水上のアクティビティを行うことで来街者の滞留時間を延ばす	106
4.3. 成果指標	107
4.3.1. 管理者が規制緩和をおこなえるかどうかを判断するための指標	107
4.3.2. 来街者（アクティビティ調査）	108
4.3.3. 経済性確認	116
4.3.4. センシュアスシティ	118

4.4. のぞましい社会実験のありかた	120
4.4.1. 【成功失敗事例調査】サテライトラボ設置による震災復興まちづくりへの展開	126
4.4.2. 【成功失敗事例調査】河川敷でイベントをまずやってみせたら地域が底上げされた	130
4.4.3. 【成功失敗事例調査】河川広場の利活用社会実験をきっかけにした地域再生事業 ...	134
4.4.4. 【成功失敗事例調査】水辺の社会実験を通した民間活力導入による地域の魅力創出	138
4.4.5. 【成功失敗事例調査】舟運事業者と背後地企業を巻き込む都市河川舟運実験	142
4.4.6. 【成功失敗事例調査】舟運活性化に向けた東京都主導の舟運社会実験	149
 5. 水辺空間を生かしたまちづくりをする上で、活用するべき制度	154
5.1. 河川敷地占用許可準則の特例占用	154
5.2. かわまちづくり支援制度	162
5.2.1. 【成功失敗事例調査】行政主導のかわまちづくりと河川空間の利活用	164
5.3. 都市再生特別措置法の都市再生推進法人	170
5.3.1. 【成功失敗事例調査】まちづくり会社が核となる街中の賑わいづくり	176